

全国学力・学習状況調査結果

5月27日に行われた全国学力・学習状況調査（6年生・9年生が実施）の結果が発表になりました。本校の結果については次の通りです。

6年	平均正答率	全国や県よりもポイントが上回った問題	全体的にポイントが低かった問題
国語 (全国)	70% (65%)	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題や資料を用いた目的を理解する問題、また文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題はよくできました。	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題や、目的を意識し、中心となる語や文を見付けて要約する問題にやや課題が残りました。
算数 (全国)	78% (70%)	すべての問題で平均より高い正答率でした。特に図形領域の正答率が高く、図形を構成する要素などに着目して捉え、筋道を立てて説明する問題がよくできました。	わり算の結果を、日常生活の場面に照らし合わせて妥当かどうか判断する問題にやや課題が残りました。

児童の生活意識等に関する調査について(6年生)

生活面:「学校に行くのが楽しい」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「朝食を毎日食べている」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている」「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と回答した児童が、県や全国平均と比べて多かったです。「1日当たりの読書の時間」は、と回答した児童は県や全国平均と比べてやや少なかったです。

学習面:国語では、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする児童の割合はやや低い結果となり、自分の考えとその理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしている児童の割合が多かったです。算数では、学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている児童が多いです。

自己意識:「いじめは、どんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童は県や全国平均と比べて多かったです。

9年	平均正答率	全国や県よりもポイントが上回った問題	全体的にポイントが低かった問題
国語	69% (65%)	全体的に国や県の平均を上回る問題が多く、特に相手や場に応じて敬語を適切に使う問題については、18ポイント程度高い結果となりました。他にも話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える問題や、事象や行為等を表す多様な語句について理解する問題についても高い結果が得られました。	国や県の平均に比べて正答率がやや低かったものとして、書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く問題が挙げられます。他にも、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題にも課題があります。
数学	62% (58%)	全16問のうち、13問で正答率は全国の平均を上回りました。観点ごとの正答率は、全観点で全国平均・神奈川平均を上回りました。特に式を使った証明の問題では、目的に応じて式を変形したり、事柄が成り立つ理由を説明する問題で15ポイント以上高い結果となりました。また、考えや理由を説明をする問題においても高い結果が得られました。	文字式の四則計算の問題では、全国平均を10ポイント以上も下回りました。基本的な計算能力に課題が残りました。また、図形分野では、錯角が等しくなるための直線の位置関係を理解しているかの問題に関しても、全国平均より約3ポイント低い結果になりました。

生徒の生活意識等に関する調査について(9年生)

[生活面] 家庭生活面ではほぼ全国並みの水準を維持し、規則正しい生活を送っていると思われます。「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の設問には、半数以上の人々が「当てはまる。」と答えています。

[学習面] 学習に対して肯定感が強く、重要性は理解している。県水準よりは高い値を示しています。「読書、あるいは新聞を読んでいるか。」の設問に対して「いいえ。」にあたる回答をしている割合が高く、これは本校だけでなく全県、全国の値も低くなっています。教育全体に対する投げかけといえるでしょう。

[自己意識] 「人の役に立ちたい。」「人とは助け合いたい。」という気持ちは強いが、自分に対しては自身が持てない様子がうかがえます。「じぶんで思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。」の設問に対する「はい。」の回答が、県や国より低くなっており、今後の課題となります。